



「ボランチわ」は日産スタジアムボランティア情報誌です

ラグビーワールドカップ 2019™の歓声がスタジアム全体に響く！

～ ボランティア「TEAM NO-SIDE」が大会の成功に大きく貢献しました ～

9月21日(土)、横浜国際総合競技場(スタジアム)でラグビーワールドカップ2019™の1試合目が行われました。横浜市では大会を盛り上げるために、みなとみらい地区にファンゾーンが開設されました。そのためボランティアはスタジアムだけでなくスタジアム周辺やファンゾーンにも配属されて、決められた役割を担当しました。日本で初めて開催される世界規模のラグビーの大会なのでボランティアとしてどのように活動したら良いのか不安もありましたが、試合当日に活動場所に立って、多くの観客が入場してくると不安は全て忘れて担当の役割に集中しました。

11月2日(土)の決勝戦を含めて6試合が横浜で行われましたが、特に印象深いのは10月13日(日)の日本対スコットランド戦だと思います。台風19号の接近に伴い、10月12日(土)のイングランド対フランス戦が中止となりました。台風の影響で鶴見川が増水して、遊水地でもある横浜国際総合競技場の駐車場を含む施設や敷地内に大量の水が入り込みました。このままでは日本代表戦の開催が危ういと誰もが思いましたが、スタジアムの職員や関係者が一丸となって開催に向けて全力で排水作業や土砂の清掃や通路の整備やスタンド・グラウンドの飛散物の片づけを行いました。10月13日午前中には、予定通りに試合が行われることが正式に決まりました。懸命に復旧作業を



ビジョンカーのある東ゲート広場の大階段は大勢の観客で混み合いました

ボランティアの笑顔で、スマイルスタジアム

行った横浜国際総合競技場の関係者の取り組みはテレビや新聞で大きく取り上げられました。試合結果は皆さんがご存知の通り、日本代表が強豪スコットランドを破り、プール戦(予選)を全勝して初めての8強入りを決めました。ラグビーファンだけでなく、にわかファンも試合中はテレビにくぎ付けとなって日本代表を応援して、ノーサイドの瞬間は日本中が歓声をあげて勝利を喜びました。まさに日本代表が苦しい練習に耐えて、ONE TEAMをスローガンとしてチームを築き上げて、磨き上げた実力が発揮された結果だと思えます。

11月2日には南アフリカ対イングランドの決勝戦が行われました。総合力で勝る南アフリカがイングランドを破り、3度目の優勝を果たしました。試合後のセレモニーは光と炎を使った祭典で優勝チームを祝福しました。

ボランティアとして活動したのは6試合でしたが、多くの思い出が残っています。スタジアムの選手更衣室や通路はワールドカップのデザインの壁紙に彩られて特別な雰囲気でした。スタジアムの中はワールドカップの色鮮やかな飾りつけがなされ、試合中にはトライやペナルティーゴール等で点数が入った時に炎が高く噴き上げられました。

ラグビーワールドカップ2019™として特筆すべきことは、いままで経験したことがないほど多くの外国人の観客がスタジアムを訪れました。英語のできるボランティアもいましたが、身振り手振りで外国人の案内をするボランティアもたくさんいました。それ以外には、外国人の車いすのお客様を案内したり、VIPの対応やケータリングを配ったり、トイレや売店に並んだ多くのお客様の列の整理をしたり、初めて経験する活動で苦労も多かったと思えます。

それでも、11月2日の決勝戦が終わり、スタジアムから帰られるお客様とハイファイブをするボランティアはみんな笑顔で、すべての活動をやり遂げた満足感と安堵で満ち溢れていました。ボランティアの皆さんはラグビーワールドカップ2019™のおそろいのすばらしいユニフォームを着て誇りを持って活動しました。「一生に一度を体験しに行こう！」をスローガンにボランティアに参加しましたが、多くのボランティアがとても良い経験ができたと思えます。

12月21日にはTEAM NO-SIDEとして最後の集まりである「サンキューパーティー」が行われました。改めて、ボランティアの皆さまが大会を大いに盛り上げて、大会の成功の一因となっていることを再確認しました。(久保勝美)



組織委員会提供

「TEAM NO-SIDE」のサンキューパーティー参加者集合写真(横浜会場)



スタジアムスタッフ提供

ボランティアのハイファイブで観客も盛り上りました



スタジアムスタッフ提供

ユニフォームを着てスタジアムに向かいます

ラグビーワールドカップボランティアから寄せられた声！

～ 11月2日の決勝戦が終わってから、活動中の思い出や印象を聞いてみました ～

(Aさん) 毎試合6万人以上のお客様対応に物ともせず経験豊富な我々日産スタジアムボランティアなくして、この大会の成功はなかったと実感しています。

(Bさん) 観客の方々からもスタジアム内だけでなく、駅においても「ありがとう」の声を頂き、感動しました。これはまさに「一生に一度」の経験だと思います。この歴史的大会に携わることが出来たこと、そして素晴らしいメンバーと活動できたことに感謝しています。

(Cさん) ファンゾーンで外国人観客の案内を行い、外国人観客との会話や案内に対して感謝されたことが楽しく嬉しかったです。ボランティアでは大きなやりがいや達成感を感じることができ、素晴らしい思い出となりました。決勝戦後、ファンゾーン出口にて観客をハイタッチで見送った時、感激して思わず涙が出てきました。

(Dさん) 長蛇の男子トイレの列を見て女子トイレに入りこむ不届きな男子がいて、女子専用トイレと叫びました。外国の女性たちから“GOOD JOB”とか“GOOD Thing”の声があつてのどの痛みを忘れて心がいやされました。

(Eさん) 改めてボランティア活動のやりがい・楽しさ・充実感・満足感・達成感を感じた。ボランティア経験の有無に関係なく、観客の皆さんに楽しんでもらおう、自分たちもボランティア活動を楽しもう、そしてRWCを成功させようという意識が非常に高かったと思う。トイレの長～蛇の列の整理！？初めの日、訳分からず無我夢中の活動であったが、反省点・良かった点を整理し次の活動に生かす、この繰り返しを毎回行った。出された意見に対して真剣に耳を傾け、一緒に考え解決して行こうとする姿勢がこのチームの皆にはあった。「このチームでまた活動したいよね」と言いながら興奮した気持ちで最終日を終了。この日メンバー全員で飲み会に行き、盛り上がりました。

(Fさん) ボランティア活動に参加できて大変貴重な楽しい経験をすることができました。会場は熱気にあふれていました。ボランティアもお客さんと一緒に盛り上がり、特に試合後のハイファイブでの見送りは楽しく、そこで「ありがとう」と声をかけてもらえて嬉しく思いました。試合の歓声を聞きながらトイレ待ちの列の整理に必死になっていた時間を懐かしく、またその活動を誇らしく思い出しています。

(Gさん) 会場案内で外国のお客様にたどたどしい英語と身振り手振りではあるが笑顔で案内をすることで、お礼を言われることが多く、ボランティアのやりがいを感じながら楽しく活動が出来ました。貴重な体験でした。国際大会のボランティアをもう一度やってみたいです。

(Hさん) 外国人への売店、トイレ、座席、喫煙所の案内は簡単な英単語で対応でき少し自信がつかしました。理解できない質問等には語学堪能な黄色腕章のメンバーに対応して頂き大いに助かりました。ワクワクして迎えた大会も終わり、今は燃え尽き症候群です。一生に一度とは言わず、RWCボランティアを何回でも希望します。

(安田十四雄さん) 「途中離脱された方の2020オリンピックのボランティア活動は自重すべきでしょう」

スポーツ医科学センターにて600名のボランティアの皆さんのお世話をしておりました。

色々なトラブルがありましたが、中でも体調を崩してリタイヤーしたスタジアムボランティアが数名おりました。これまで長年多く活動してきたホームでの活動なのに「何故」と疑問がわきました。その内の一人は「2日続けて活動したことが無いから」と言いました。普段の慣れた活動と異なり、多くの知らない仲間と組んで、慣れない作業で神経が疲れたことでしょうか、これがワールドカップであり国際大会なのです。スタジアムでの活動だからと、安易な気持ちで参加された結果でしょう。

このリタイヤーされた方の中に2020オリンピックボランティアに参加希望の方が見かけられます。私のオリンピック活動(長野五輪)経験から見ても、9月10月のラグビーWCでリタイヤーしてしまわれる方は、極暑の2020五輪でのスケジュールが規定の16日間に押し詰められた濃い活動はとても困難だと思います。どうぞ再考して自重されることをお勧めいたします。

『今回、ラグビーワールドカップのボランティアに参加された方々から多くのメールをいただきました。ご協力いただいた方々に御礼申し上げます。全てのメールを読ませて頂きました。限られた紙面のために全員のメールを掲載することができませんでした。また掲載したメールに関して届いたメールの文面の中から、一部分を抜粋させて頂きました。悪しからず、ご了承のほど、よろしくお願い致します。』(久保勝美)

横浜F・マリノス 15年ぶりのJ1リーグ優勝!

～ ファン・サポーターが待ちに待った瞬間、優勝の「シャール」が横浜に～

横浜F・マリノス様
日産スタジアム
ボランティア



祝
J1
優勝

ファン・サポーターの力強い声援で、横浜F・マリノスが15年ぶりの優勝を果たしました

12月7日(土)、J1リーグの最終節で優勝をかけて横浜F・マリノスとFC東京が直接対決しました。日産スタジアムには開門直後から多くのサポーターが応援席を埋めて、悲願のJ1リーグ優勝を目の前で見ようと精一杯の声援を送りました。横浜F・マリノスはこの試合で3点差を付けられて負けても優勝が決まる絶対的有利な状況でしたが、試合が始まると終始、横浜F・マリノスが攻勢を続けて、前半を2対0でリード。試合は最終的に3対0で勝利。2019年の横浜F・マリノスの攻撃的サッカーを最後まで見せて、優勝に花を添えました。この大一番を見ようと日産スタジアムに63,854人が来場して、Jリーグ史上最多の観客数を記録しました。今まで暑い日も寒い日も日産スタジアム運営ボランティアとして活動してきた、苦労した時もありましたが、今回のJ1リーグ優勝でボランティア全員が笑顔となりました。(久保勝美)



横浜F・マリノス黒澤社長のご挨拶

第7回日産スタジアム 5時間耐久リレーマラソン開催

～ 約4600名のランナーが寒さを吹き飛ばして健脚を競い合いました～

12月15日(日)、5時間耐久リレーマラソン(約300チーム、約2100人)と42.195リレーマラソン(約300チーム、2300人)が行われました。大会が始まる10時過ぎの気温が約10℃と肌寒く、参加したランナーたちは十分にウォーミングアップを行って、スタートを待ちました。最初の競技は今年から新設された親子マラソンです。日産スタジアム内のトラックと外周コースを合わせて1.5キロのコースを親子で1周する種目です。黄色のゲートに107組の親子(214人)が勢ぞろいして、スターターの合図で飛び出してきました。親子で走るペースを合わせ、トップの選手がとても早いタイムで日産スタジアムのトラックに戻ってきました。次に5時間耐



スタート直後の親子マラソンのランナー

久リレーマラソンと42.195kmリレーマラソンの参加者がスタートしました。1チームは1人から15人で編成されて、メンバーが走る順番や担当する周回数をチーム毎に決めることができます。ただし、メンバーは必ず1周以上走ることが求められます。チームの中で走力のあるメンバーには長距離を走ってもらい、走るのが不得手なメンバーには少ない回数を走らせるなどの配慮をしました。5時間耐久リレーでは走行距離や周回数を競い合いました。また42.195kmリレーマラソンでは走破タイムを競いました。午後になると各ランナーには疲れが見えてきて、給水所には多くのランナーが訪れて、給水して一服していました。スタジアムの中の給水所では水のみを提供でしたが、スタジアム外周コースには水に加えてフルーツやお菓子といったエイドの提供もありました。

日産スタジアム運営ボランティアは、受付・参加賞引き換え、荷物預かり、ゴミ管理、リレーゾーン整理、給水(スタジアム内・外周コース)、グラウンド出入管理、総括・本部に分かれて活動を行いました。参加したランナーたちは、寒さを忘れて走っていましたが、多くのボランティアは寒さにふるえながら活動しました。しかし、多くのランナーが給水所のボランティアに声をかけてくれて、笑顔でランナーと言葉を交わす機会となりました。

5時間耐久リレーマラソンの活動に参加されたスタジアム職員やボランティアの方々、お疲れ様でした。(久保勝美)



ゴールして給水する親子ランナー

日産スタジアム・サイクルパークフェスティバルが行われました

～ ツール・ド・ニッポンシリーズ 2019 最終戦として開催 ～

11月30日(土)、最高気温8℃で北風が吹き抜けるコンディションの中で、「第15回日産スタジアム・サイクルパークフェスティバル」が行われました。昨年からはツール・ド・ニッポンシリーズの一環として開催され、特に今年は9月から11月にラグビーワールドカップ2019™が行われたので、この時期になりました。日産スタジアム内のトラックと新横浜公園内のコースを合わせた1周3.2kmの特設コースを自慢の自転車で健脚を競いました。レース種目はキングの部、3時間の部、2時間の部があり、ソロの参加や5人までのチームエントリーが可能で、チームによっては小学5年生以上の参加者が大人に混じって、レースを楽しんでいました。運営ボランティアはフラッグマーシャルとして20ポストで活動を行いました。サイクルパーク・フェスティバルに参加しているライダーの安全を守り、レースをより楽しむためにフラッグマーシャルは事故やトラブルが起きた時に黄旗・赤旗・白旗を振ってライダーに注意を促します。また無線を使って現場の状況を大会本部に連絡します。フラッグマーシャルの活動を的確に行うために、参加者は11月16日に講習会で座学と実地訓練を受けました。それでも大会当日には目の前で自転車が落車したりトラブルが起きると、あわてて黄旗を振ったり無線で現場の状況を報告したりして、フラッグマーシャルに慣れるまで苦労していました。

1年に1度、日産スタジアムで行われる自転車競技の大会で、多くの参加者がレースを楽しんで、ゴール後に



ピレネーピーク上のフラッグマーシャル(左側)



マラソンゲートを通ってスタジアム外のコースへ

笑顔になっていました。今回、日産スタジアム運営ボランティアとしてサイクルパーク・フェスティバルの参加者を支える貴重な経験をすることができて良かったと思います。(久保勝美)

IAAF 世界リレー2019横浜大会 ～世界のトップアスリートが横浜国際総合競技場に集結～

2019年5月11日～12日、国際陸上競技連盟(IAAF)が主催する国際競技会である「IAAF 世界リレー2019横浜大会」が開催されました。2014年に新設された重要な陸上大会で、今回で第4回大会になりますが日本では初めての開催になります。

日産スタジアム運営ボランティアの活動は西エリア/北エリア/南エリアの4Fと5Fのチケットチェックでした。あざやかなブルーのTシャツと帽子が支給されて、気持ちも新たに活動しました。

IAAF 世界リレー大会はリレー種目だけの大会ですがこの大会でしか見ることのできない4人×200mリレーや4人×800mリレー、そして男女混合の4人×400mリレーやハードルを使ったリレーなど見どころがたくさんありました。世界各国から有名なアスリートが集結して、世界最高レベルの脚力を披露しました。中にはリオデジャネイロで行われたオリンピック前回大会の多くのメダリストが今回のIAAF 世界リレー横浜大会に出場しました。それでも一番の見どころは東京オリンピックの種目である4人×100mリレーや4人×400mリレーで、日本代表の男子チームと女子チームが登場するとスタジアム全体が声援で盛り上がりました。

世界リレー大会では、出場選手の入場を演出するためにマラソングート近くに大型パネルで仕切られた入場口が作られ、そこを通過して選手が現れると、会場から大きな拍手が沸き起きます。選手たちの顔は緊張感でいっぱいと言うよりも、レースでベストタイムを出そうとする意欲に満ちあふれていました。スタジアムの雰囲気と体を慣らそうとダッシュを繰り返して、体をほぐしながらスタートラインに並びます。選手の名前が場内で呼ばれると軽く手を上げて観客に応えます。スタジアム全体がつかの間の静寂に包まれて、選手たちはスターターの合図を待ちます。スタートの電子音が鳴ると同時に一斉に飛び出していきます。リレー種目は陸上競技の中でもチームワークが重視されます。日本男子チームはバトンパスの技術が秀でており、前回のリオデジャネイロのオリンピックで銀メダルを獲得しました。ところが、今回の日本男子チームは4人×100mリレーでバトンパスを失敗して、失格となりました。

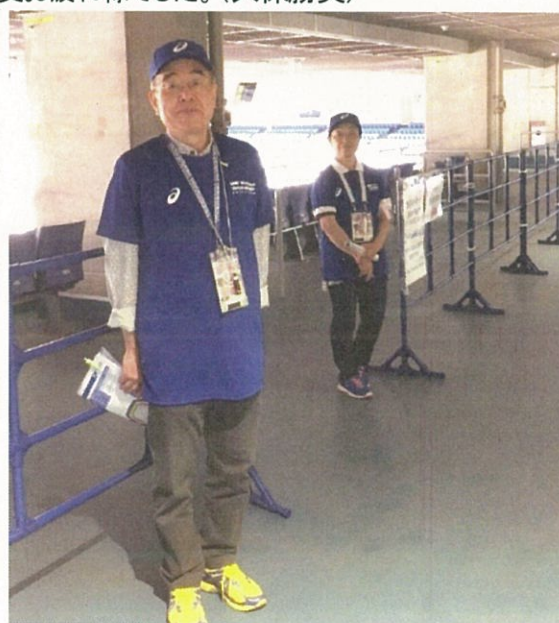
各種目の優勝チームは国旗を背中に巻いて、ビクトリーランとしてスタジアム場内を1周します。スタジアムの中には多くの外国人の観客が応援に来て、優勝したチームが目の前を通ると、大きな歓声を上げていました。

いよいよ今年は東京オリンピックが開催されます。リレー種目の日本代表チームは、さらにチームワークを強固にして、バトンパスの技術に磨きをかけて、ぜひオリンピックでメダルを獲得して欲しいと思います。

今回の活動に携わった運営ボランティア、スタジアム職員の方々、大変お疲れ様でした。(久保勝美)



おそろいのブルーのユニフォームを着用してチケットチェック



チケットチェックの活動場所(南エリア5F)

2年目のファイナルスタジアム スポーツボランティア アカデミー



2019年4月6日、ファイナルスタジアム スポーツボランティア アカデミー初級Aコースが開講されました。受講生の中には東京マラソンや横浜マラソンのボランティア経験者がいました。またラグビーワールドカップ2019™や東京オリンピックのボランティアに登録している人もいました。中にはスポーツボランティアの経験がまったくない人もいましたが、アカデミー講師がプレゼンテーションを行って、スポーツボランティアを行う上で必要となる知識や日産スタジアムの概要の説明を聴いて、理解を深めていきました。また、ワークショップとしてグループディスカッションを行って、マリノス戦の活動実習に向けて話し合いました。その内容をまとめてグループ発表を行うことにより、自分のグループとは違う意見があることに気がつき、活動実習に向けてもっと準備をすべきだと思う受講生もいました。

4月13日の横浜F・マリノス対名古屋グランパス戦、及び4月28日の横浜F・マリノス対鹿島アントラーズ戦のどちらか1試合に参加して活動実習を行いました。西エリア7F(W21～W25)にグループ単位で配属されました。ほとんどの実習生はチケットチェックの経験がないので、講師役のボランティアから説明を聴いて、時間が経つにつれてだんだん活動に慣れていきました。観客からスマートフォンの電子チケットを見せられて、チケットの内容を慎重に確認する人もいました。予想より早くチケットチェック活動を理解した実習生も多かったです。中には「こちらはW25ゲートです。チケットを確認しています。」と大きな声を出して、観客をスムーズに案内する実習生もいて、講師役のボランティアは安心して見ていられました。

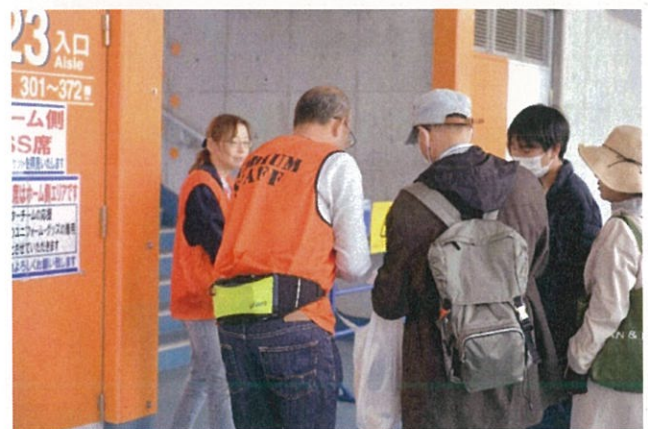
2018年に始まったファイナルスタジアム スポーツボランティア アカデミーは2018年に3回、2019年に3回と合計6回の開催の実績をつみ、受講生は総計300名を超えています。アカデミー卒業生の中には日産スタジアム運営ボランティアに応募して、すでにボランティアの一員として活躍している方も多数います。(久保勝美)



ワークショップのグループ発表の様子



スマホの電子チケットを確認(西エリア7F)



チケットチェックの活動実習で徐々に慣れてきました

梅雨の合間に子供たちが田植えを体験！

～ 新横浜公園で恒例の田植えと花植えを行いました ～



田植え体験に参加された家族の皆さんと運営ボランティアで集合写真を撮りました

日産スタジアム運営ボランティアのグリーン＆クリーン部会は新横浜公園市民活動支援事業に加わって、「親子で楽しく米づくり、植えて覚えよう花の名前」と言った活動を行っています。第1弾として2019年6月9日に「田植え体験」を新横浜公園にある田んぼと花壇で行いました。梅雨入りして空模様が気になりましたが、雨の合間に田植えができました。グリーン＆クリーン部会のメンバーが中心となって、事前に田起こしや代掻き(しろかき)を行って、田植えや花植えの準備を行いました。この行事には一般公募で申し込みを行い、小学生以下のお子さんのいる17家族(大人20名、子供29名、合計40名)が参加しました。この行事は地域に密着して、「田植え体験」のちらしを見て昨年より多くの家族が応募しました。中には6年連続で参加している家族がいて、「子どもがどうしても田植えに参加したいと言うので来ました」と笑顔で語ってくれました。初めて田植えをする子供たちが多かったので運営ボランティアが大きな紙に田植えのやり方のイラストを描いて、説明しました。田んぼに入った子供たちは、慣れない手つきでもち米の苗をゆっくりゆっくり植えていきました。今回初めて田んぼに入る子供の中には、田んぼの泥に足を取られて、動けなくなる子供もいました。田んぼの中に尻もちをつく子どもたちもいましたが、親子で大笑いしていました。



小さな手に苗を持ってゆっくり田植えをしました



苗が抜けないようにしっかり土の中に植えました

続いて運営ボランティアから花の苗を渡された子供たちは、スコップを使って花壇に穴を掘って花の苗を植えました。

田植えを終えた子供たちは稲の苗が「すくすく大きくなあれ！」といった願いを木札に書いて、自分たちが田植えをした場所に木札を立てました。最後に参加者と運営ボランティアとスタジアム職員が田んぼの横に集まって集合写真を撮影しました。参加者は運営ボランティアが用意した出来立ての美味しいお餅(きな粉とあんこ)をもらって、その場で食べて楽しんでいました。帰り際に、家族の方々が、運営ボランティアに「今日は楽しかった。ありがとうございました」と声を掛けていました。活動に参加した運営ボランティアにとっても楽しい1日となりました。(久保勝美)



シャベルで穴を掘って花の苗を植えました



きれいな花が咲いてほしいとお願いしました

親子が力を合わせて「かかし作り」を体験！



参加された親子と運営ボランティアとスタジアム職員がスタジアムの中でかかしを持って記念撮影

2019年8月4日、日産スタジアム運営ボランティアのグリーン&クリーン部会が主催する「かかし作り体験」を日産スタジアム運営ボランティアルーム前で行いました。一般公募で参加者を募り、5家族(大人6人、子ども7人、合計13人)がイベント会場に来てくれました。日産スタジアムの建物の陰になって直射日光は防ぐことができますが、30℃以上の暑さの中、お手伝いの運営ボランティアや親子の皆さんが汗だくになって、かかしを手作りしていきました。足にはペットボトルを再利用したり、腕にはクッション材を巻き付けました。頭の丸い形を作って白い布を巻いて顔にしました。毛糸の

[X]

頭髪、帽子、シャツやズボンや靴下を履かせました。最後に子ども達がマジックで目・鼻・口を描き込んで個性的なかかしが完成しました。また、子ども達が「かかしさん、おいしいお米を守ってね。」といった願いを書きました。これらの願いは新横浜公園の田んぼ近くにかかしと一緒に掲示されます。仕上がったかかしと一緒に親子の写真を撮りました。

2時間余りのかかし作りの作業を終えて、お昼休みとしました。運営ボランティアが朝から作ったお赤飯を一人に1パックずつ渡しました。お腹を空かした様子で、ほとんどの人が残さず食べていました。食べ終わった親子と運営ボランティアとスタジアム職員がスタジアムの中に移動して、出来上がったかかしを持って記念撮影をしました。スタジアムの中に初めて入った親子はスタジアムの大きさに驚いて、とても嬉しそうにスマホで家族の写真を撮っていました。

真夏の大変暑い中で汗だくになりましたが、グリーン&クリーン部会の運営ボランティアの皆さん、スタジアム職員の方々、お疲れ様でした。(久保勝美)



マジックでかかしの顔に目や鼻や口を描きました



出来上がったかかしと親子で写真撮影

平成31年(令和元年)20周年記念講演・パーティー 会議報告書「実行委員会議」(要約)

日時: 令和元年10月30日(水)10:00~11:30 場所: ボランティアルーム

出席者: 安田、上田、羽賀、久保(勝)、横田、石崎

(1) 日産スタジアムボランティア20周年記念講演会および記念パーティーについて

- ① 11月上旬から下旬に20周年記念講演会および記念パーティーの協力者募集をする。
メンバー確定後、打ち合わせ会議を実施。

平成31年(令和元年)20周年記念講演・パーティー 会議報告書(その2)「実行委員会議」(要約)

日時: 令和元年12月1日(日)10:00~12:00 場所: 317号室

出席者: 安田・大家・上田・大橋・久保(正)・羽賀・久保(勝)・瀬尾・鈴木(郁)・横塚・

中村・漆原・倉橋(文)・高村・鈴木(貞)・加藤(幸)・伊東 (計17名)

(1) 日産スタジアムボランティア20周年記念講演会および記念パーティーについて

- ① 20周年記念講演会および記念パーティーに協力していただけるスタッフに内容説明。

<記念パーティーについて>

- ① 記念パーティーの内容は開会挨拶、来賓挨拶、来賓紹介、20周年表彰代表、乾杯。
- ② 来賓紹介の次に20周年表彰を行う。(欠席者を除く)。
- ③ 記念パーティーの後半はイベント。
- ④ 景品管理は安田さんと久保正文さんが行う。横浜Fマリノスに景品の協力依頼済み。その他、ボランティア保有の記念品。
- ⑤ 展示部会は過去の活動内容がわかるものを展示する(過去のID・活動写真・登録の推移等)。(展示部会)
 - ① 20周年の記念品(過去のイベントで使用したボランティア・ユニフォームなど)を展示・記念講演会場に展示する。(記念パーティー会場には展示しない)
- (広報部会)
 - ① ボランチわ20周年記念特別号を編集する。その際に10周年記念特別号を参考とする。
 - ② 小倉名譽場長に創立20周年に関する原稿を依頼済。

横浜 F・マリノス戦 7回以上活動参加者の皆さまへお知らせ

2019年度にJリーグのF・マリノス戦に活動された方で7回以上参加された方は下記のとおり98名です。横浜マリノス様より活動研鑽のための観戦チケット(1名に2枚)が贈呈されます。観戦日は3月に決定して活動日に301号室にて表示されますので、該当された方は「観戦希望日」を早めに掲示される観戦チケット表に記入してください。観戦チケットは事務局に入手次第に活動日に301号室にて該当者に配布(または郵送)いたします。観戦日期限までに希望日記入の無い方には、事務局にて指定した期日のチケットを配布いたしますので、予めご了承ください。尚、本年はオリンピック年のため6月～8月は活動がありませんので、予約記入は5月までお願い致します。

尚、チケット配布に関する電話・メールでの問い合わせは承りかねます。ご承知ください。 担当;安田

【2019年度 横浜 F・マリノス戦 7回以上活動参加者名簿】

ID11: 井出清四郎、安田十四雄、大家啓伸、上田敏彦、原 敏美、大橋靖子、久保正文、菊池喜代勝、野見山捷一、中藤早苗、瀬尾孝子、津久井喜代子、鈴木崇、鈴木克明、筒井由美子、横塚雅美、原橋清美、尾形玲子、川尻和子、田代勝子、小磯寿美子

ID15: 松村千春、岩崎俊一郎、大石忠雄、土手健治 ID16: 押尾正明、富田民男、富田聖子、森はつえ

ID17: <0名> ID18: 松本久子、中澤ふさ子 ID19: 仙名尋嗣、渡辺福子 ID20: 堀内弘一

ID21: 長谷川俊一、伊知地晴美、平尾隆郎、伊奈川守男、岩下輝雄、岩下和子、大金信夫、尾形忠實

ID22: <0名> ID 23: 松尾忠史、菊池佳子 ID24: 中尾吉宏、玉井美和子、塚田 貢、塚田美保

ID25: 羽賀眞晤、中村信武、阿部淳、井野隆司 ID 26: 鳴田東光、須藤美与子、吉原建志、瀬谷 裕

ID27: 倉橋丈夫、林泰信、荒井禎尚、岸 茂雄、大谷圭吾、富岡浩一、本道治男

ID28: 小屋喜志子、大森儀江、星川尚美、久保勝美、高村美慶、遠藤 茂、阿部英樹、藤岡 寛、川上隆三、早川敬一郎

ID29: 横堀憲夫、市川功子、ハッ橋隆、金城 渉、佐々木良子、加藤幸夫、菊池章義

ID30: 村木茂弘、内田博朗、片岡正明、木村 渉、酒井修一、満束登美枝、手島慶子、関根裕子、和田 靖、笠 誠一郎、高橋 実、田淵正英、高木英明、赤平紀明、小林伸生、神村芳子、上野登美子、小野光昭

ID31: <0>

*合計:98名【2019年12月 10日作成 作成者:羽賀 眞晤】

《対象試合:Jリーグ戦(3/2~12/7:12試合)+ マンチェスター戦(7/27:1試合)=13試合》

ボランチわ 次号 (第36号) の予告

～ 日産スタジアムボランティア創立20周年記念特集号 ～

1月18日(土)、9時30分から日産スタジアムボランティア創立20周年記念事業の一環として、日産スタジアム名誉場長の小倉純二様による記念講演会を301号室で行いました。午後からは場所を新横浜のソシア21に移して記念パーティーを催しました。当日はあいにく雨模様で、一時雪が舞う冬らしい天候でしたが多くの方々にご参加頂きましてありがとうございました。また実行委員を快く引き受けて頂いた20数名の実行委員の方々には準備段階や当日の役割を積極的に行っていただき、おかげさまで20周年記念行事を成功裏に終わらせることができました。心より感謝しております。

さて、計画していた日産スタジアムボランティア記念事業は終了しましたが、これらの行事の内容を記事にとりまとめて「ボランチわ第36号(日産スタジアムボランティア創立20周年記念特集号)」を発行します。そのための実行委員がすでに選ばれていてボランチわ(第36号)の作成に着手しました。通常のボランチわよりも盛り沢山で日産スタジアムボランティアの20年の歴史をわかりやすくまとめる予定です。皆さまのお手元に届くまで数カ月かかるものと思われませんが、どうぞお待ち下さい。(久保勝美)

※	INFORMATION	※
---	-------------	---

令和2年1月～令和2年3月の活動予定

月日	イベント名	集合時間	解散時間	要員
2月19日(水)	ACL 横浜F・マリノス vs シドニーFC【第2節】	15:45	21:30	126
2月23日(日)	横浜F・マリノス vs ガンバ大阪【第1節】	10:15	14:00	126
3月14日(土)	横浜F・マリノス vs 川崎フロンターレ【第4節】	10:15	14:00	126

(集合時間や解散時間など変更される場合がありますので、活動参加者は事前に確認してください)

(写真提供者:久保勝美・スタジアムスタッフ)

✂ ✂ ✂ ✂ ✂ ✂ ✂ 編集後記 ✂ ✂ ✂ ✂ ✂ ✂ ✂

✂ 11月2日、ラグビーワールドカップ2019™の決勝戦が横浜国際総合競技場で華々しく行われて、世界的な大会は大成功で終了しました。その後、ワールドカップボランティア“TEAM NO-SIDE”に参加した日産スタジアム運営ボランティアから多くの感想やコメントがメールで届きました。その中に「ラグビーボランティアに参加したかったのに、結局連絡を頂くことがなく、ボランティアに参加できませんでした。ボランティアをされた方は、一生に一度の貴重な経験をされ、良かったと思いますが、一方で私のように貴重なチャンスを逃して残念に感じている者もいたということを知って頂きたくメールをさせて頂きました。」と無念さをつづったメールがありました。最近、スポーツボランティアに応募する人が増えて、多くの大会で抽選によってボランティア参加者を決めています。日産スタジアム運営ボランティアの活動でも抽選を行っています。今年の東京オリンピック・パラリンピックの大会ボランティアでは応募した約24万人から約8万人を採用するといった狭き門です。抽選方法に関してまったく情報がないので、どのように採用・不採用が決まったかわかりません。しかし、ボランティア活動を行う際に、不採用になった多くの人がいることを忘れてはなりません。この先、東京オリンピック・パラリンピックではボランティア活動の役割や会場のお知らせが届き、各種トレーニングに参加して、ユニフォームを受け取ってから実際の活動を行います。中途半端な気持ちで活動に参加せず、世界中から来られた多くの観客に楽しんでもらえるように心して活動したいと思います。(久保勝美)

✂ RWC2019ボランティア活動に参加された皆さんの「楽しさ・充実感・満足感」いっぱい感想を拝見して、120名のスタジアムの皆さんが参加できたことは本当に良かったと思いました。これは、何より皆さんの日々の数多くの活動の積み重ねの成果あってこそその喜びだと思います。国際大会活動の数々の厳しさもを身をもって味わうと同時に、多くの感動を得ることが出来たことをとても嬉しく思います。来る2020TOKYOオリパラも、ラグビーよりは人数が少ないでしょうが、フィールドでシティーで再びラグビーとはまた一味違った大きな感動を味わっていただけることでしょう。今から体力を十分に蓄えて元気に臨んでください。

久保さん、第35号編集そして20周年記念事業と併行しての作業、ご苦労さまでした。続いての20周年記念号編集を宜しくお願いいたします。(安田 十四雄)

発行・編集：日産スタジアム ボランティア事務局 情報部会

〒222-0036 横浜市港北区小机町3300 日産スタジアム TEL:045-477-5030 FAX:045-477-5002